

## 平成28年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」の概要



平成29年10月26日  
千葉県教育庁教育振興部  
指導課生徒指導・いじめ対策室  
043-223-4054

本調査は、児童生徒の生徒指導上の諸課題の現状を把握し、今後の施策の推進を目的に毎年実施されている文部科学省所管の統計調査です。

本概要は、暴力行為、いじめ、長期欠席、公立高等学校の中途退学、自殺に関する平成28年度調査の本県分（千葉市を含む公立学校）を取りまとめたものです。

### 1 調査項目及び対象

#### (1) 暴力行為

県内全公立小・中・義務教育・高等学校

#### (2) いじめ

県内全公立小・中・義務教育・高等学校及び特別支援学校

#### (3) 小学校及び中学校における長期欠席の状況等

県内全公立小・中・義務教育学校

#### (4) 高等学校における長期欠席の状況等

県内全公立高等学校

#### (5) 高等学校における中途退学者数等の状況

県内全公立高等学校

#### (6) 自殺

県内全公立小・中・義務教育・高等学校

※義務教育学校においては、前期課程は小学校に、後期課程は中学校に計上

### 2 調査対象期間

平成28年4月1日から平成29年3月31日までの1年間

### 3 調査結果の概要

#### (1) 小・中・高等学校における暴力行為の発生件数は3,736件で、前年度の3,518件より218件増加。

##### ア 校種別発生件数

小学校における発生件数は1,539件で、前年度の1,443件より96件増加している。

中学校における発生件数は2,018件で、前年度の1,861件より157件増加している。

高等学校における発生件数は179件で、前年度の214件より35件減少している。

##### イ 形態別発生件数

###### (ア) 対教師暴力

小学校における発生件数は127件で、前年度の145件より18件減少している。中学校における発生件数は257件で、前年度の155件より102件増加している。高等学校における発生件数は7件で、前年度の12件より5件減少している。

(イ) 生徒間暴力

小学校における発生件数は1, 285件で、前年度の1, 131件より154件増加している。中学校における発生件数は1, 190件で、前年度の1, 164件より26件増加している。高等学校における発生件数は119件で、前年度の152件より33件減少している。

(ウ) 対人暴力

小学校における発生件数は11件で、前年度の24件より13件減少している。中学校における発生件数は76件で、前年度の55件より21件増加している。高等学校における発生件数は10件で、前年度の7件より3件増加している。

(エ) 器物損壊

小学校における発生件数は116件で、前年度の143件より27件減少している。中学校における発生件数は495件で、前年度の487件より8件増加している。高等学校における発生件数は43件で、前年度の43件と同数である。

**(2) 小・中・高等学校・特別支援学校におけるいじめの認知件数は31, 617件で、前年度の29, 376件より2, 241件増加。**

ア 校種別認知件数

(ア) 小学校における認知件数は24, 876件で、前年度の22, 537件より2, 339件増加している。

(イ) 中学校における認知件数は6, 376件で、前年度の6, 499件より123件減少している。

(ウ) 高等学校における認知件数は253件で、前年度の213件より40件増加している。

(エ) 特別支援学校における認知件数は112件で、前年度の127件より15件減少している。

イ いじめの現在の状況

いじめの現在の状況(平成29年3月31日現在)としては、「解消しているもの」が27, 431件で、全認知件数の86.8%、「解消に向けて取組中」が4, 150件で13.1%、「その他」が36件で0.1%である。

ウ いじめの発見のきっかけ

(ア) 小学校での「いじめの発見のきっかけ」のうち上位3つは、①アンケート調査など(68.3%)、②本人からの訴え(13.5%)、③学級担任が発見(10.2%)である。

(イ) 中学校での「いじめの発見のきっかけ」のうち上位3つは、①アンケート調査など(57.9%)、②本人からの訴え(17.7%)、③学級担任が発見(8.8%)である。

(ウ) 高等学校での「いじめの発見のきっかけ」のうち上位3つは、①アンケート調査など(54.9%)、②本人からの訴え(22.5%)、③学級担任が発見(7.5%)である。

(エ) 特別支援学校での「いじめの発見のきっかけ」のうち上位3つは、①アンケート調査など(59.8%)、②学級担任が発見(24.1%)、③本人からの訴え(9.8%)である。

エ いじめられた児童生徒の相談の状況

(ア) 小学校の児童の「相談の状況」のうち上位3つは、①学級担任に相談(81.3%)、②保護者や家族等に相談(16.9%)、③誰にも相談していない(6.4%)である。

(イ) 中学校の生徒の「相談の状況」のうち上位3つは、①学級担任に相談(75.3%)、②保護者や家族等に相談(24.0%)、③友人に相談(13.2%)である。

(ウ) 高等学校の生徒の「相談の状況」のうち上位3つは、①学級担任に相談(57.7%)、②誰にも相談していない(18.6%)、③保護者や家族等に相談(17.8%)である。

(エ) 特別支援学校の児童生徒の「相談の状況」のうち上位3つは、①学級担任に相談(92.9%)、②学級担任以外の教職員に相談、保護者や家族等に相談(共に8.9%)である。

#### オ いじめの態様

(ア) 小学校での「いじめの態様」のうち上位3つは、①冷やかしやからかい、悪口等(59.7%)、②軽くぶつかられる、たたかれる等(25.6%)、③仲間はずれ、集団による無視(18.7%)である。

(イ) 中学校での「いじめの態様」のうち上位3つは、①冷やかしやからかい、悪口等(64.1%)、②仲間はずれ、集団による無視(18.5%)、③軽くぶつかられる、たたかれる等(15.7%)である。

(ウ) 高等学校での「いじめの態様」のうち上位3つは、①冷やかしやからかい、悪口等(52.2%)、②パソコンや携帯電話等で、ひぼう・中傷や嫌なことをされる(20.6%)、③嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたりさせられる(12.3%)である。

(エ) 特別支援学校での「いじめの態様」のうち上位3つは、①冷やかしやからかい、悪口等(60.7%)、②軽くぶつかられる、たたかれる(32.1%)、③パソコンや携帯電話等で、ひぼう・中傷や嫌なことをされる(3.6%)である。

**(3) 小学校における長期欠席児童数は3,950人で、全児童に対する割合は1.26%である。長期欠席児童の中で不登校を理由としている児童数は1,456人で、前年度の1,233人より223人増加し、全児童に対する割合は0.46%で0.07ポイント増加。**

**中学校における長期欠席生徒数は6,579人で、全生徒に対する割合は4.29%である。長期欠席生徒の中で不登校を理由としている生徒数は4,191人で、前年度の4,160人より31人増加し、全生徒に対する割合は2.73%で0.04ポイント増加。**

※不登校児童生徒数(平成28年度に通算して30日以上欠席した児童生徒のうち「不登校」を理由とする児童生徒数)

#### ア 長期欠席者の状況

(ア) 小学校の長期欠席者3,950人のうち、「病気」は1,704人で長期欠席者全体に占める割合は43.1%、「経済的理由」は0人、「不登校」は1,456人で長期欠席者全体に占める割合は36.9%、「その他」は790人で長期欠席者全体に占める割合は20.0%である。

(イ) 中学校の長期欠席者6,579人のうち、「病気」は1,805人で長期欠席者全体に占める割合は27.4%、「経済的理由」は0人、「不登校」は4,191人で、長期欠席者全体に占める割合は63.7%、「その他」は583人で長期欠席者全体に占める割合は8.9%である。

#### イ 不登校の要因

(ア) 小学校の児童で「不登校の要因」の学校・家庭に係る要因を示す区分のうち上位3つは、①家庭に係る状況(44.4%)、②いじめを除く友人関係をめぐる問題(18.7%)、③学業の不振(10.6%)である。なお「いじめ」は0.5%である。[※該当なし(22.1%)を除く順位]

また、本人に係る要因を示す分類のうち上位2つは、①「無気力」の傾向がある(31.0%)、②「不安」の傾向がある(30.1%)となっている。  
(イ) 中学校の生徒で「不登校の要因」の学校・家庭に係る要因を示す区分のうち上位3つは、①いじめを除く友人関係をめぐる問題(26.7%)、②家庭に係る状況(23.3%)、③学業の不振(21.4%)である。なお「いじめ」は0.5%である。また、本人に係る要因を示す分類のうち上位2つは、①「無気力」の傾向がある(34.3%)、②「不安」の傾向がある(25.4%)となっている。

ウ 不登校児童生徒の欠席の状況

(ア) 小学校の不登校児童で「うち、90日以上欠席している者」の割合は44.1%、「うち、出席日数が10日以下の者」の割合は5.6%、「うち、出席日数が0日の者」の割合は2.5%である。

(イ) 中学校の不登校生徒で「うち、90日以上欠席している者」の割合は61.9%、「うち、出席日数が10日以下の者」の割合は12.1%、「うち、出席日数が0日の者」の割合は3.8%である。

エ 不登校児童生徒への指導結果状況

(ア) 小学校の不登校児童で「指導の結果登校する又はできるようになった児童」の割合は、30.1%である。

不登校児童のうち、指導により「継続した登校には至らないものの好ましい変化が見られるようになった児童」の割合は、21.2%である。

(イ) 中学校の不登校生徒で「指導の結果登校する又はできるようになった生徒」の割合は、30.1%である。

不登校生徒のうち、指導により「継続した登校には至らないものの好ましい変化が見られるようになった生徒」の割合は、22.5%である。

オ 不登校児童生徒が相談・指導等を受けた学校内外の機関等

(ア) 小学校の不登校児童で「相談・指導等を受けた学校内外の機関等」のうち上位3つは、①スクールカウンセラー、相談員等(32.9%)、②養護教諭(22.4%)、③教育委員会所管の機関(教育支援センターを除く)(14.6%)である。

(イ) 中学校の不登校生徒で「相談・指導等を受けた学校内外の機関等」のうち上位3つは、①スクールカウンセラー、相談員等(35.6%)、②養護教諭(20.6%)、③教育支援センター(11.1%)である。

**(4) 高等学校における長期欠席生徒数は3,579人で、全生徒に対する割合は3.44%である。長期欠席生徒の中で不登校を理由としている生徒数は2,658人で、前年度の2,604人より54人増加し、全生徒に対する割合は2.55%で前年度より0.04ポイント増加。**

ア 長期欠席者の状況

(ア) 長期欠席者3,579人のうち、「病気」は468人で長期欠席者全体に占める割合は13.1%、「経済的理由」は57人で長期欠席者全体に占める割合は1.6%、「不登校」は2,658人で長期欠席者全体に占める割合は74.3%、「その他」は396人で長期欠席者全体に占める割合は11.1%である。

(イ) 長期欠席者で「不登校」を理由としている生徒のうち、全日制の生徒数は1,705人で、全日制生徒全体に対する割合は1.7%、定時制の生徒数は953人で、定時制生徒全体に対する割合は32.8%である。

イ 不登校の要因

高等学校の生徒で「不登校の要因」の学校・家庭に係る要因を示す区分のうち上位3つは、①学業の不振(19.6%)、②いじめを除く友人関係をめぐる

問題（15.9%）、③家庭に係る状況（12.8%）である。なお「いじめ」は0.3%である。[※該当なし（30.5%）を除く順位]

また、本人に係る要因を示す分類のうち上位2つは、①「無気力」の傾向がある（41.8%）、②「あそび・非行」の傾向がある（15.2%）となっている。

ウ 不登校生徒の欠席の状況

高等学校の不登校生徒で「うち、90日以上欠席している者」の割合は14.5%、「うち、出席日数が10日以下の者」の割合は3.1%、「うち、出席日数が0日の者」の割合は1.4%である。

エ 不登校生徒への指導結果状況

高等学校の不登校生徒で「指導の結果登校する又はできるようになった生徒」の割合は、全日制で36.8%、定時制で31.5%である。

不登校の生徒のうち、指導により、「継続した登校には至らないものの好ましい変化が見られるようになった生徒」の割合は、全日制で10.9%、定時制で11.0%である。

オ 不登校生徒が相談・指導等を受けた学校内外の機関等

不登校生徒が「相談・指導等を受けた学校内外の機関等」のうち上位3つは、①スクールカウンセラー、相談員等（14.1%）、②養護教諭（12.2%）、③病院・診療所（4.8%）である。

**(5) 公立高等学校の中途退学者数は1,332人で、前年度の1,304人より28人増加し、年度当初の在籍者数に占める割合は1.27%であり、前年度の1.24%より0.03ポイント増加。**

（※平成28年4月1日の在籍者数105,148人を基準とする中途退学率）

**課程別に見ると、全日制が1,008人で、前年度の875人より133人増加し、定時制は282人で、前年度の391人より109人減少。通信制は42人で、前年度の38人より4人増加。**

ア 課程別の中途退学率は、全日制が1.0%で前年度の0.9%より0.1ポイント増加している。定時制は9.7%で前年度の12.7%より3.0ポイント減少している。通信制は3.9%で前年度の3.3%より0.6ポイント増加している。

イ 全日制の学年別中途退学率は、第1学年では1.6%、第2学年では1.1%、第3学年では0.4%である。また、単位制では0.6%である。

ウ 全中途退学者数に占める割合は、全日制において第1学年では34.0%、第2学年では23.8%、第3学年では9.2%、単位制では8.6%である。また、定時制は21.2%、通信制は3.2%である。

エ 中途退学の理由の上位3つは、①学校生活・学業不適應（52.3%）、②進路変更（22.7%）、③学業不振（12.5%）である。

（ア）「学校生活・学業不適應」の内訳としての上位3つは、①もともと高校生活に熱意がない（42.4%）、②人間関係がうまく保てない（20.8%）、③授業に興味がない（15.5%）である。

（イ）「進路変更」の内訳としての上位3つは、①別の高校への入学を希望（46.9%）、②就職を希望（28.7%）、③高卒程度認定試験受験を希望（7.9%）である。[※その他（12.5%）を除いた順位]

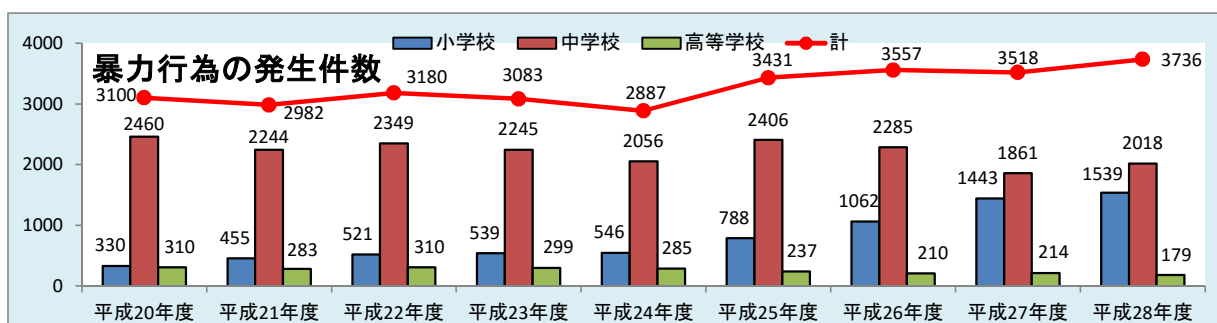
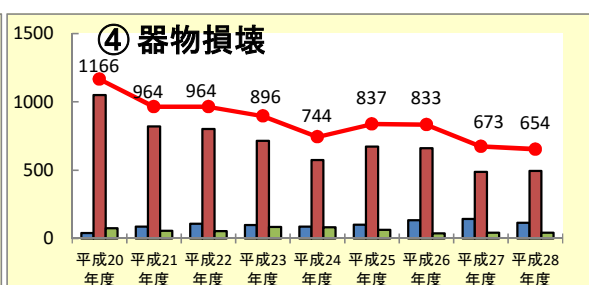
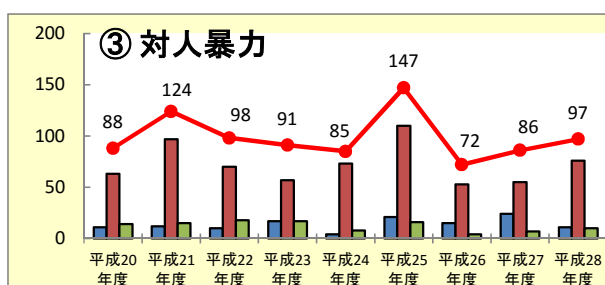
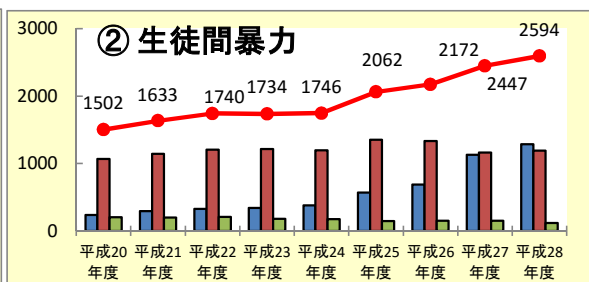
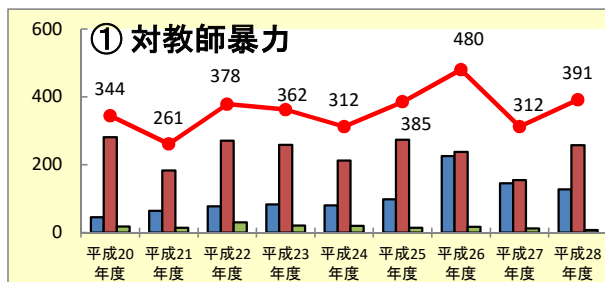
**(6) 小・中・高等学校における自殺者数は8人（小0人、中2人、高6人）。**



# 平成28年度 公立小・中・高等学校の暴力行為の発生件数(千葉県)

(単位:延べ件数)

年度	学校種別	① 対教師暴力		② 生徒間暴力		③ 対人暴力		④ 器物損壊	小計	計
		校内	校外	校内	校外	校内	校外	校内		
平成20年度	小学校	45	0	199	35	4	7	40	330	3,100
	中学校	279	2	969	96	10	53	1,051	2,460	
	高等学校	18	0	184	19	2	12	75	310	
平成21年度	小学校	64	0	278	15	11	1	86	455	2,982
	中学校	183	0	1,006	137	23	74	821	2,244	
	高等学校	14	0	177	20	0	15	57	283	
平成22年度	小学校	75	2	317	8	7	3	109	521	3,180
	中学校	271	0	1,063	144	14	56	801	2,349	
	高等学校	30	0	179	29	0	18	54	310	
平成23年度	小学校	83	0	317	24	15	2	98	539	3,083
	中学校	244	14	1,088	128	9	48	714	2,245	
	高等学校	21	0	154	23	0	17	84	299	
平成24年度	小学校	80	0	353	23	2	2	86	546	2,887
	中学校	211	1	1,048	148	8	65	575	2,056	
	高等学校	20	0	152	22	0	8	83	285	
平成25年度	小学校	98	0	535	33	19	2	101	788	3,431
	中学校	271	2	1,212	138	44	66	673	2,406	
	高等学校	14	0	123	21	3	13	63	237	
平成26年度	小学校	225	0	668	20	7	8	134	1,062	3,557
	中学校	235	3	1,210	123	12	41	661	2,285	
	高等学校	17	0	139	12	1	3	38	210	
平成27年度	小学校	145	0	1,077	54	19	5	143	1,443	3,518
	中学校	154	1	1,102	62	37	18	487	1,861	
	高等学校	12	0	143	9	6	1	43	214	
平成28年度	小学校	127	0	1,238	47	9	2	116	1,539	3,736
	中学校	257	0	1,148	42	38	38	495	2,018	
	高等学校	7	0	103	16	3	7	43	179	



※ 暴力行為の定義(平成19年度一部改訂)

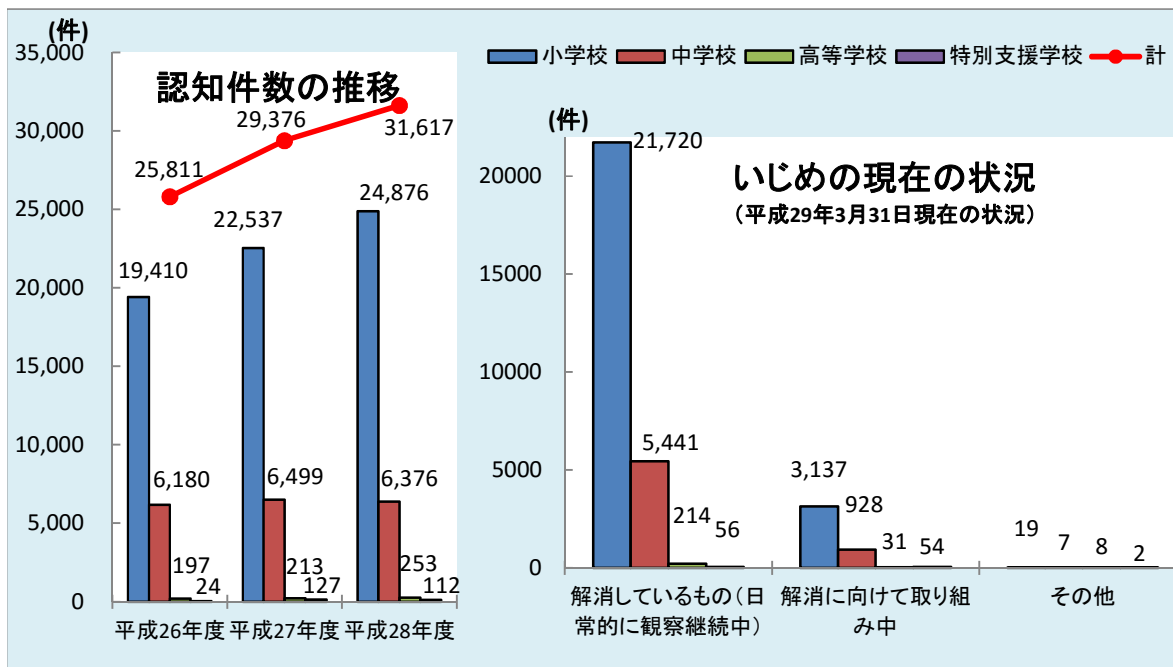
「暴力行為」とは、「自校の児童生徒が、故意に有形力(目に見える物理的な力)を加える行為」をいい、被暴力行為の対象によって、「対教師暴力」(教師に限らず、用務員等の学校職員も含む)、「生徒間暴力」(何らかの人間関係がある児童生徒同士に限る)、「対人暴力」(対教師暴力、生徒間暴力の対象者を除く)、学校の施設・設備等の「器物損壊」の四形態に分ける。ただし、家族・同居人に対する暴力行為は、調査対象外とする。

# 平成28年度 公立小・中・高・特支のいじめの状況等(千葉県)

## 1 いじめの認知状況等

	区 分	公立学校 総数	うち認知校数及び 割合(%)		認知件数	増減【%】	一校平均 件数
			校数	割合(%)			
小学校	平成26年度	820	591	72.1%	19,410	5,526【39.8%】	23.7
	平成27年度	810	622	76.8%	22,537	3,127【16.1%】	27.8
	平成28年度	806	682	84.6%	24,876	2,339【10.4%】	30.9
中学校	平成26年度	382	329	86.1%	6,180	18【 0.3%】	16.2
	平成27年度	381	333	87.4%	6,499	319【 5.2%】	17.1
	平成28年度	381	348	91.3%	6,376	△123【 △1.9%】	16.7
高等学校	平成26年度	148	55	37.2%	197	65【49.2%】	1.3
	平成27年度	146	60	41.1%	213	16【 8.1%】	1.5
	平成28年度	146	70	47.9%	253	40【 18.8%】	1.7
特別 学校 支援	平成26年度	38	10	26.3%	24	15【166.7%】	0.6
	平成27年度	42	13	31.0%	127	103【429.2%】	3.0
	平成28年度	42	17	40.5%	112	△15【△11.8%】	2.7
計	平成26年度	1,388	985	71.0%	25,811	5,624【27.9%】	18.6
	平成27年度	1,379	1,028	74.5%	29,376	3,565【13.8%】	21.3
	平成28年度	1,375	1,117	81.2%	31,617	2,241【7.6%】	23.0

※高等学校の「公立学校総数」は、県立、市立の全日制128校、定時制17校、通信制1校の合計である。



※いじめの定義(平成25年度一部改訂)

本調査において、個々の行為が「いじめ」に当たるか否かの判断は、表面的・形式的に行うことなく、いじめられた児童生徒の立場に立つて行うものとする。

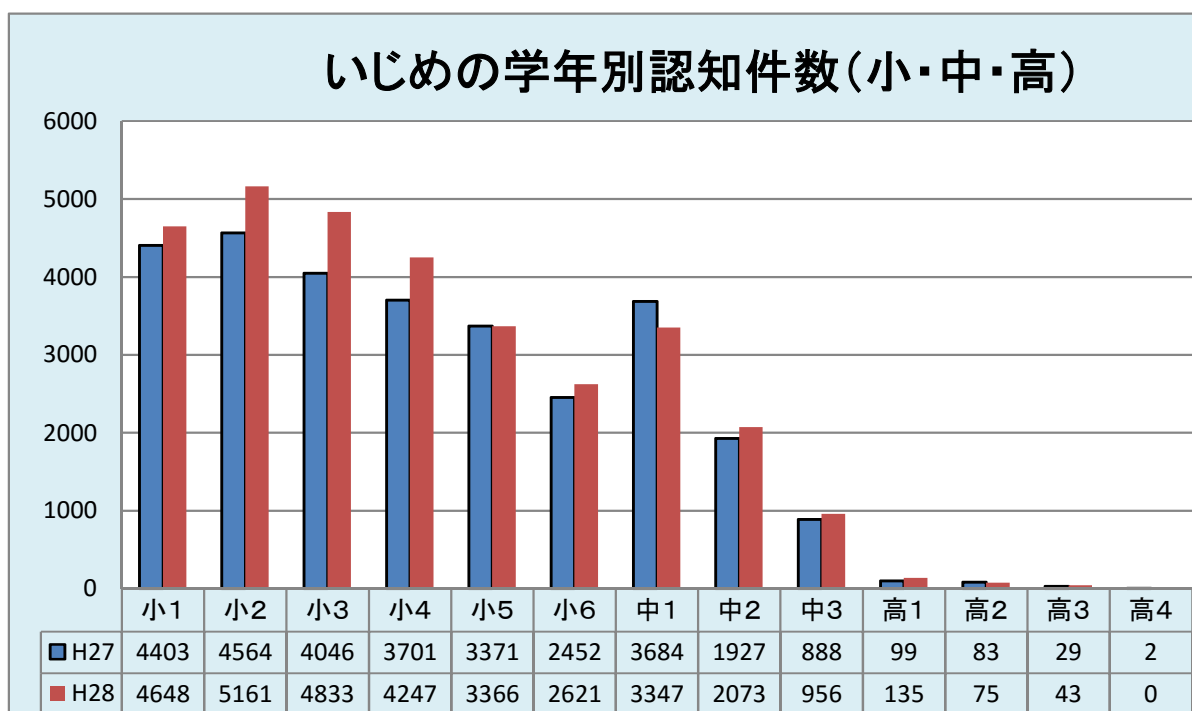
「いじめ」とは、「児童生徒に対して、当該児童生徒が在籍する学校に在籍している等当該児童生徒と一定の人的関係のある他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為(インターネットを通じて行われるものも含む。)であって、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているもの。」とする。なお、起こった場所は学校の内外を問わない。



## 2 いじめの認知件数の学年別, 男女別内訳

(単位: 件)

区分		1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	計
小学校	男子	2,557	2,799	2,594	2,431	1,939	1,447	13,767
	女子	2,091	2,362	2,239	1,816	1,427	1,174	11,109
	小計	4,648	5,161	4,833	4,247	3,366	2,621	24,876
中学校	男子	1,951	1,122	516	—	—	—	3,589
	女子	1,396	951	440	—	—	—	2,787
	小計	3,347	2,073	956	—	—	—	6,376
高等学校	男子	77	42	25	0	—	—	144
	女子	58	33	18	0	—	—	109
	小計	135	75	43	0	—	—	253
小学部	男子	1	9	6	8	1	0	25
	女子	0	2	1	0	0	0	3
	小計	1	11	7	8	1	0	28
中学部	男子	5	3	4	—	—	—	12
	女子	6	1	0	—	—	—	7
	小計	11	4	4	—	—	—	19
高等部	男子	12	11	22	—	—	—	45
	女子	5	12	3	—	—	—	20
	小計	17	23	25	—	—	—	65
特別支援学校計		29	38	36	8	1	0	112
合計		8,159	7,347	5,868	4,255	3,367	2,621	31,617



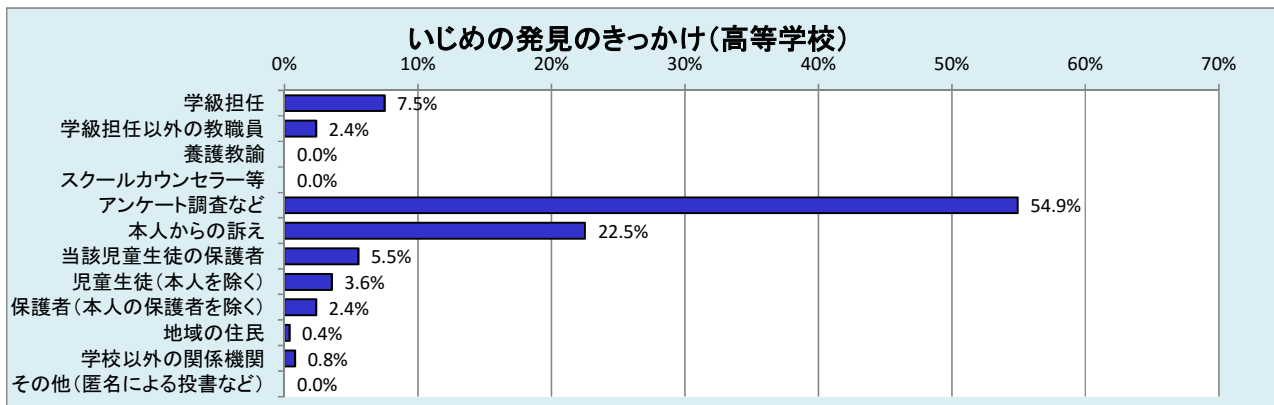
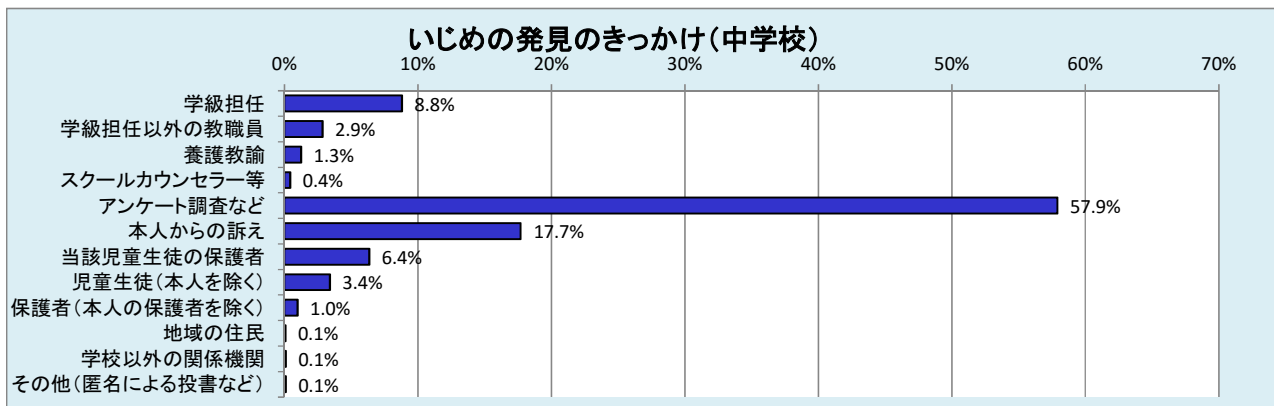
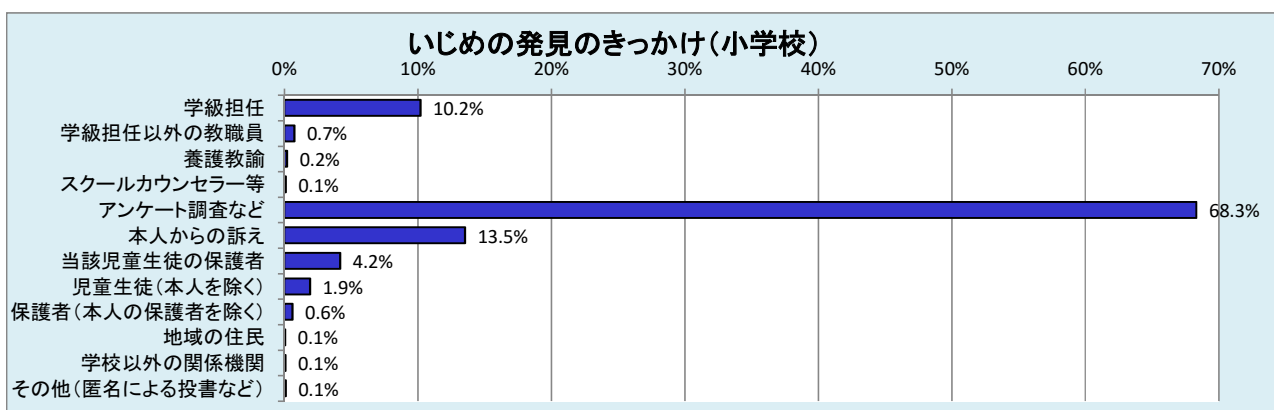
※27年度と比較して小学校全体で2,339件の増加

(注)調査では、単位制の高等学校の1年次生は「高1」、2年次生は「高2」、3年次生は「高3」、4年次生以上は「高4」としてそれぞれ計上している。

3 いじめの発見のきっかけ

(単位:件)

区 分		小 学 校	中 学 校	高等学校	特別支援学校	計
学校の教職員等が発見		19,789	4,543	164	97	24,593
内 訳	学級担任	2,537	561	19	27	3,144
	学級担任以外の教職員	186	182	6	3	377
	養護教諭	48	80	0	0	128
	スクールカウンセラー等	23	28	0	0	51
	アンケート調査など	16,995	3,692	139	67	20,893
学校の教職員以外からの情報により発見		5,087	1,833	89	15	7,024
内 訳	本人からの訴え	3,365	1,129	57	11	4,562
	当該児童生徒の保護者	1,041	406	14	2	1,463
	児童生徒(本人を除く)	476	217	9	0	702
	保護者(本人の保護者を除く)	148	63	6	2	219
	地域の住民	13	5	1	0	19
	学校以外の関係機関	20	6	2	0	28
	その他(匿名による投書など)	24	7	0	0	31
計		24,876	6,376	253	112	31,617



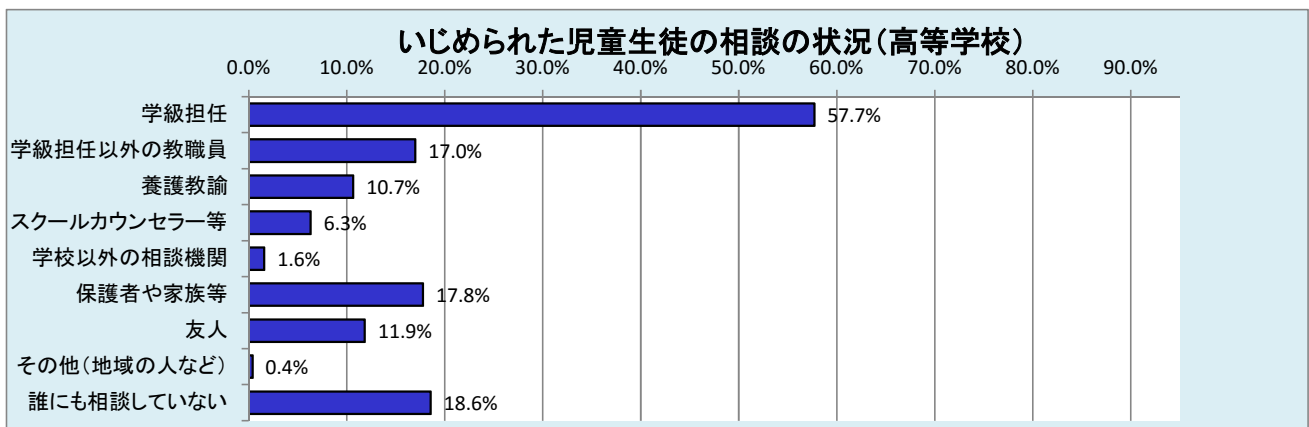
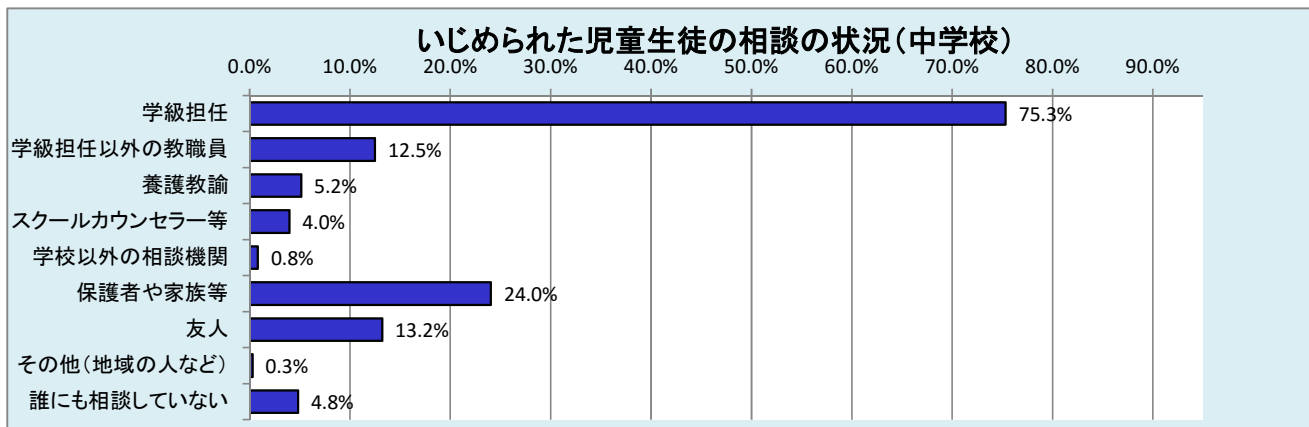
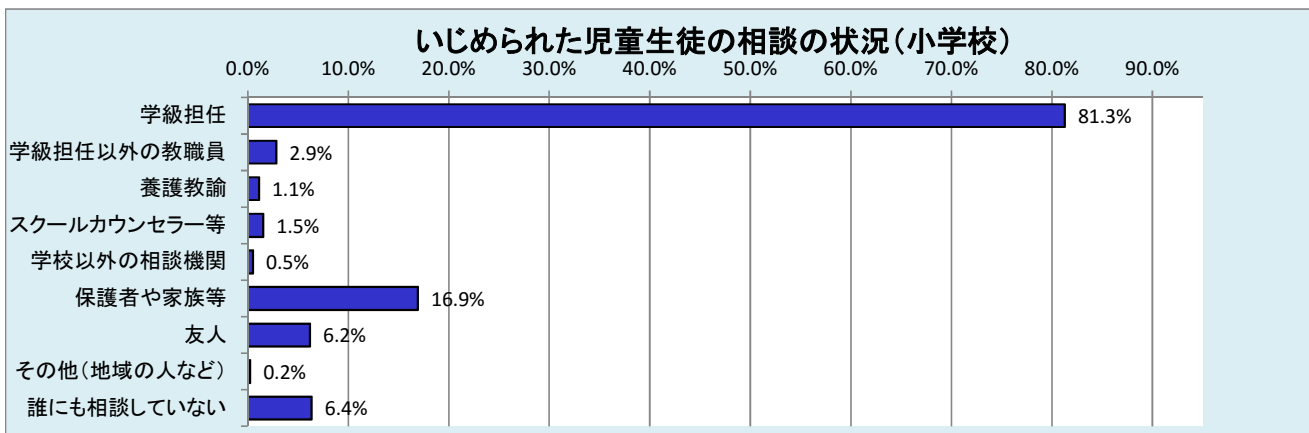
※上記の割合(%)は各学校種ごとのいじめの認知件数に対する割合を示している。  
(認知件数: 小学校24, 876件、中学校6, 376件、高等学校253件)

#### 4 いじめられた児童生徒の相談の状況

(単位:件)

区分	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	計
学級担任	20,221	4,803	146	104	25,274
学級担任以外の教職員	710	797	43	10	1,560
養護教諭	276	329	27	1	633
スクールカウンセラー等	384	254	16	0	654
学校以外の相談機関	132	53	4	0	189
保護者や家族等	4,210	1,533	45	10	5,798
友人	1,540	843	30	2	2,415
その他(地域の人など)	56	20	1	0	77
誰にも相談していない	1,581	308	47	0	1,936
計	29,110	8,940	359	127	38,536

(注)複数選択を可としている。



※上記の割合(%)は各学校種ごとのいじめの認知件数に対する割合を示している。

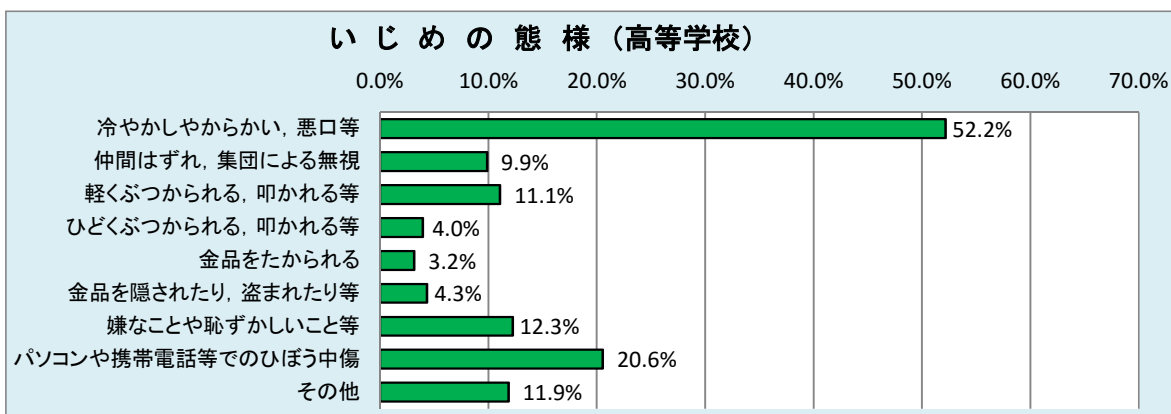
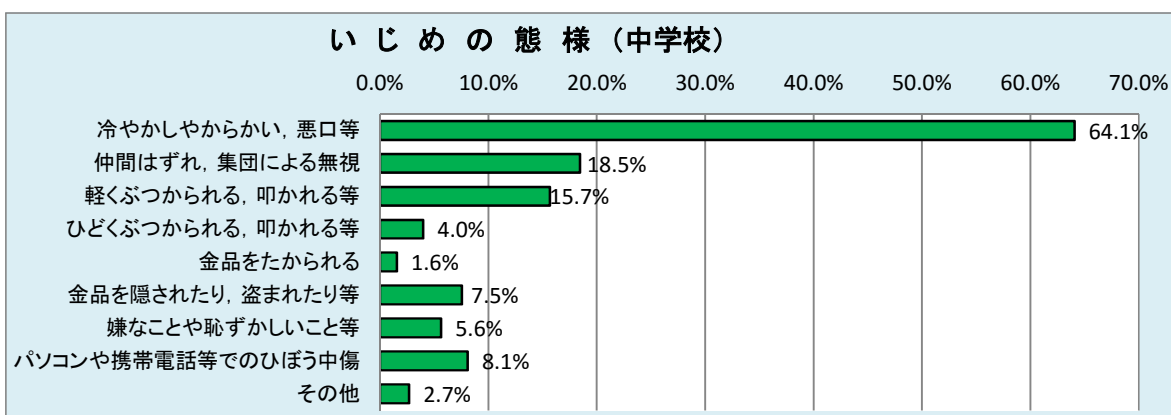
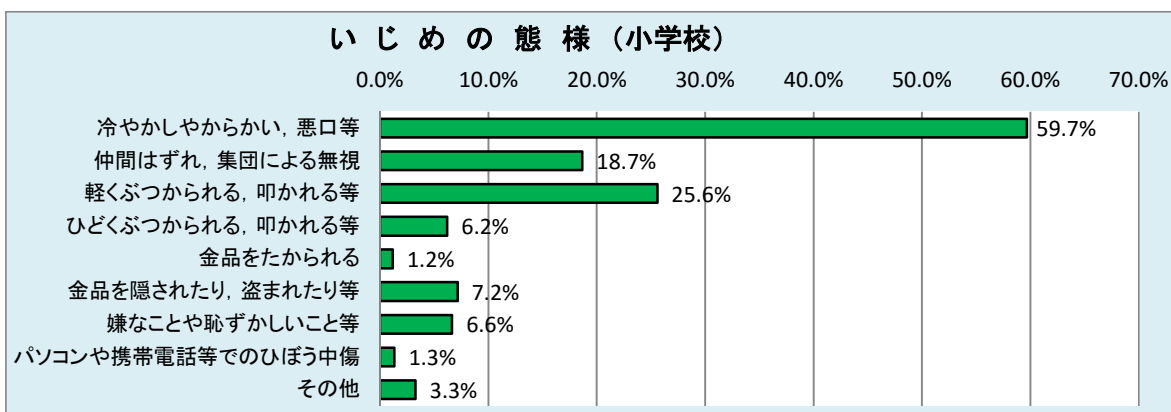
(認知件数:小学校24, 876件、中学校6, 376件、高等学校253件)

5 いじめの態様

(単位:件)

区 分	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	計
冷やかしやからかい, 悪口等	14,847	4,085	132	68	19,132
仲間はずれ, 集団による無視	4,642	1,177	25	2	5,846
軽くぶつかられる, 叩かれる等	6,365	999	28	36	7,428
ひどくぶつかられる, 叩かれる等	1,542	255	10	3	1,810
金品をたかられる	297	100	8	2	407
金品を隠されたり, 盗まれたりする等	1,782	481	11	0	2,274
嫌なことや恥ずかしいことをされる等	1,653	360	31	2	2,046
パソコンや携帯電話等でのひぼう中傷	329	516	52	4	901
その他	818	171	30	1	1,020
計	32,275	8,144	327	118	40,864

(注)複数選択を可としている。



※上記の割合(%)は各学校種ごとのいじめの認知件数に対する割合を示している。

(認知件数: 小学校24, 876件、中学校6, 376件、高等学校253件)

## 平成28年度 公立小中学校の長期欠席の状況等(千葉県)

### 1-(1)長期欠席者数(在籍者数は、5月1日現在の学校基本調査による)

	在籍者数(5/1現在)	長期欠席者総数	長期欠席率(%)
小学校	314,710	3,950	1.26%
中学校	153,293	6,579	4.29%
合 計	468,003	10,529	2.25%

(注)長期欠席者とは、一つの年度間に連続又は断続して30日以上欠席した者である。

### 1-(2)理由別長期欠席者数

長期欠席の理由	小学校			中学校			合 計		
	総数	出現率(%)	割合(%)	総数	出現率(%)	割合(%)	総数	出現率(%)	割合(%)
病 気	1,704	0.54%	43.14%	1,805	1.18%	27.44%	3,509	0.75%	33.33%
経済的理由	0	0.00%	0.00%	0	0.00%	0.00%	0	0.00%	0.00%
不登校	1,456	0.46%	36.86%	4,191	2.73%	63.70%	5,647	1.21%	53.63%
その他	790	0.25%	20.00%	583	0.38%	8.86%	1,373	0.29%	13.04%
合 計	3,950	1.26%	100%	6,579	4.29%	100%	10,529	2.25%	100.00%

(注1)出現率とは、理由別長期欠席者数の全生徒数に対する割合である。

(注2)割合とは、理由別長期欠席者数の合計に占める割合である。

(注3)欠席理由が2つ以上あるときは、主な理由を1つ選び記入する。

### 2 不登校生徒における前年度の不登校の有無

	有	無	合 計
小学校	637	759	1,396
中学校	2,503	1,688	4,191
合 計	3,140	2,447	5,587

(注)4(1)小学校1年60名については入学前の調査はしていない。

### 3 小・中学校における不登校児童生徒数の変遷

区分	年度	学校数	全児童生徒数 (人)	不登校児童生 徒数(人)	前年度との不 登校数の差 (人)	全児童生徒に 対する割合 (%)	前年度との割 合の差
小 学 校	平成12年度	860	329,973	904		0.27%	0.00
	平成13年度	860	327,851	831	-73	0.25%	-0.02
	平成14年度	859	327,455	839	8	0.26%	0.01
	平成15年度	859	329,643	848	9	0.26%	0.00
	平成16年度	859	329,922	764	-84	0.23%	-0.03
	平成17年度	858	331,897	776	12	0.23%	0.00
	平成18年度	855	333,374	821	45	0.25%	0.02
	平成19年度	854	332,846	819	-2	0.25%	0.00
	平成20年度	850	334,308	811	-8	0.24%	-0.01
	平成21年度	845	333,929	852	41	0.26%	0.02
	平成22年度	847	333,188	871	19	0.26%	0.00
	平成23年度	838	331,232	898	27	0.27%	0.01
	平成24年度	837	325,557	856	-42	0.26%	-0.01
	平成25年度	828	322,121	1,086	230	0.34%	0.08
	平成26年度	820	319,190	1,158	72	0.36%	0.02
	平成27年度	810	316,855	1,233	75	0.39%	0.03
	平成28年度	806	314,710	1,456	223	0.46%	0.07
中 学 校	平成12年度	385	172,422	4,541		2.63%	0.24
	平成13年度	385	167,559	4,629	88	2.76%	0.13
	平成14年度	385	161,781	4,301	-328	2.66%	-0.10
	平成15年度	385	156,398	4,085	-216	2.61%	-0.05
	平成16年度	384	152,280	3,992	-93	2.62%	0.01
	平成17年度	382	150,490	4,091	99	2.72%	0.10
	平成18年度	383	149,670	4,190	99	2.80%	0.08
	平成19年度	384	150,894	4,363	173	2.89%	0.09
	平成20年度	385	151,289	4,340	-23	2.87%	-0.02
	平成21年度	383	153,337	4,247	-93	2.77%	-0.10
	平成22年度	383	152,764	4,182	-65	2.74%	-0.03
	平成23年度	382	154,643	3,879	-303	2.51%	-0.23
	平成24年度	383	154,563	3,734	-145	2.42%	-0.09
	平成25年度	382	155,022	3,884	150	2.51%	0.09
	平成26年度	382	154,662	3,963	79	2.56%	0.05
	平成27年度	381	154,585	4,160	197	2.69%	0.13
	平成28年度	381	153,293	4,191	31	2.73%	0.04
合 計	平成12年度	1245	502,395	5,445		1.08%	0.07
	平成13年度	1245	495,410	5,460	15	1.10%	0.02
	平成14年度	1244	489,236	5,140	-320	1.05%	-0.05
	平成15年度	1244	486,041	4,933	-207	1.01%	-0.04
	平成16年度	1243	482,202	4,756	-177	0.99%	-0.02
	平成17年度	1240	482,387	4,867	111	1.01%	0.02
	平成18年度	1238	483,044	5,011	144	1.04%	0.03
	平成19年度	1238	483,740	5,182	171	1.07%	0.03
	平成20年度	1235	485,597	5,151	-31	1.06%	-0.01
	平成21年度	1228	487,266	5,099	-52	1.05%	-0.01
	平成22年度	1230	485,952	5,053	-46	1.04%	-0.01
	平成23年度	1220	485,875	4,777	-276	0.98%	-0.06
	平成24年度	1220	480,120	4,590	-187	0.96%	-0.02
	平成25年度	1210	477,143	4,970	380	1.04%	0.08
	平成26年度	1202	473,852	5,121	151	1.08%	0.04
	平成27年度	1191	471,440	5,393	272	1.14%	0.06
	平成28年度	1187	468,003	5,647	254	1.21%	0.07

#### 4 学年別不登校児童生徒数

##### (1) 小学校

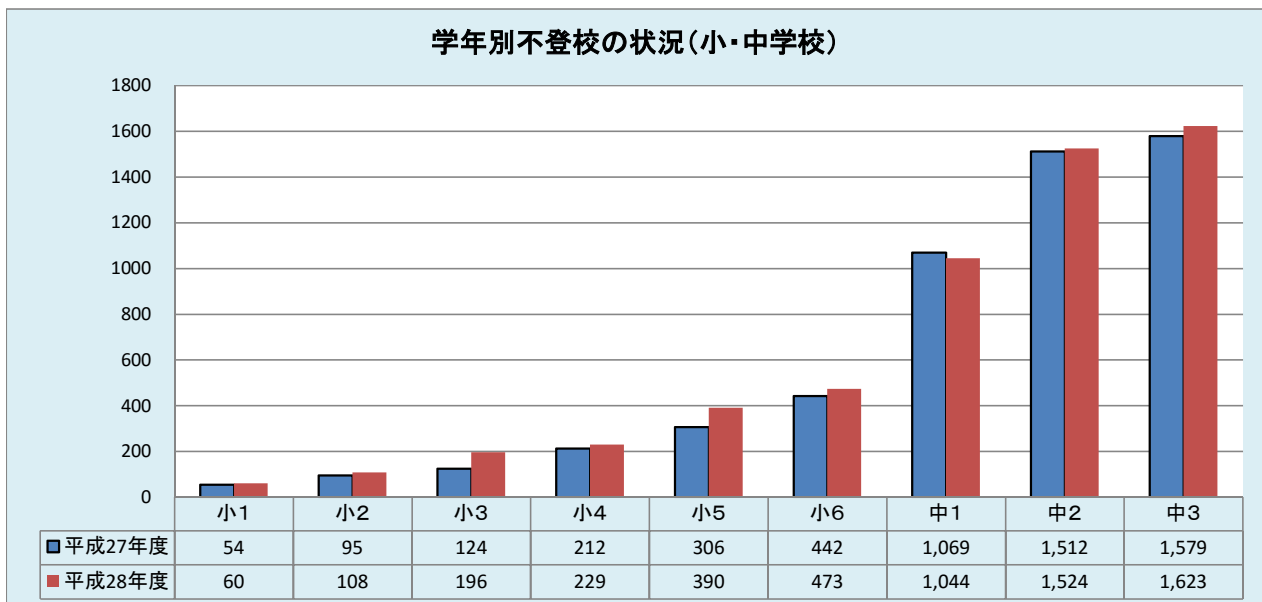
区分	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
不登校児童数	60	108(35)	196(71)	229(97)	390(190)	473(244)	1,456(637)
うち、90日以上欠席	13	42	72	96	183	236	642
うち、出席日数が10日以下	0	0	10	12	30	30	82
うち、出席日数が0日	0	0	3	7	16	10	36

##### (2) 中学校

区分	1年	2年	3年	合計
不登校生徒数	1,044(415)	1,524(920)	1,623(1,168)	4,191(2,503)
うち、90日以上欠席	557	941	1,097	2,595
うち、出席日数が10日以下	71	212	224	507
うち、出席日数が0日	19	88	52	159

※( )内は前年度から不登校の状態(30日以上)が継続している児童生徒の人数。中学校1年については平成27年度における小学校6年の不登校児童生徒の人数。

学年別不登校の状況(小・中学校)



#### 5 不登校児童生徒の在籍学校数

区 分	学校総数(校)	不登校在籍学校数(校)
小 学 校	806	499
中 学 校	381	358
合 計	1,187	857

#### 6 不登校児童生徒への指導結果状況

区 分	小学校	中学校	計
	人数 %	人数 %	人数 %
指導の結果登校する又はできるようになった児童生徒	438 30.1%	1,262 30.1%	1,700 30.1%
指導中の児童生徒	1018 69.9%	2,929 69.9%	3,947 69.9%
うち継続した登校には至らないものの好ましい変化が見られるようになった児童生徒	308 21.2%	943 22.5%	1,251 22.2%
合 計	1,456	4,191	5,647

## 7 不登校の要因

### (1) 小学校

本人に係る要因 (分類)	学校・家庭に係る要因 (区分)	分類別児童数	学校に係る状況								家庭に係る状況	左記に該当なし
			いじめ	いじめを除く友人関係をめぐる問題	教職員との関係をめぐる問題	学業の不振	進路に係る不安	クラブ活動・部活動等への不適応	学校のきまり等をめぐる問題	進入学時、転編入学、進級時の不適応		
「学校における人間関係」に課題を抱えている。		238	6	155	27	14	2	3	6	9	37	11
	—		2.5%	65.1%	11.3%	5.9%	0.8%	1.3%	2.5%	3.8%	15.5%	4.6%
	16.3%	85.7%	57.0%	64.3%	9.0%	20.0%	27.3%	20.0%	15.3%	5.7%	3.4%	
「あそび・非行」の傾向がある。		14	0	1	0	4	0	0	0	1	7	2
	—		0.0%	7.1%	0.0%	28.6%	0.0%	0.0%	0.0%	7.1%	50.0%	14.3%
	1.0%	0.0%	0.4%	0.0%	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%	1.7%	1.1%	0.6%	
「無気力」の傾向がある。		452	0	29	3	84	3	3	10	9	251	91
	—		0.0%	6.4%	0.7%	18.6%	0.7%	0.7%	2.2%	2.0%	55.5%	20.1%
	31.0%	0.0%	10.7%	7.1%	54.2%	30.0%	27.3%	33.3%	15.3%	38.8%	28.3%	
「不安」の傾向がある。		438	0	77	10	45	4	5	8	37	165	112
	—		0.0%	17.6%	2.3%	10.3%	0.9%	1.1%	1.8%	8.4%	37.7%	25.6%
	30.1%	0.0%	28.3%	23.8%	29.0%	40.0%	45.5%	26.7%	62.7%	25.5%	34.8%	
「その他」		314	1	10	2	8	1	0	6	3	187	106
	—		0.3%	3.2%	0.6%	2.5%	0.3%	0.0%	1.9%	1.0%	59.6%	33.8%
	21.6%	14.3%	3.7%	4.8%	5.2%	10.0%	0.0%	20.0%	5.1%	28.9%	32.9%	
計		1,456	7	272	42	155	10	11	30	59	647	322
	100.0%	0.5%	18.7%	2.9%	10.6%	0.7%	0.8%	2.1%	4.1%	44.4%	22.1%	

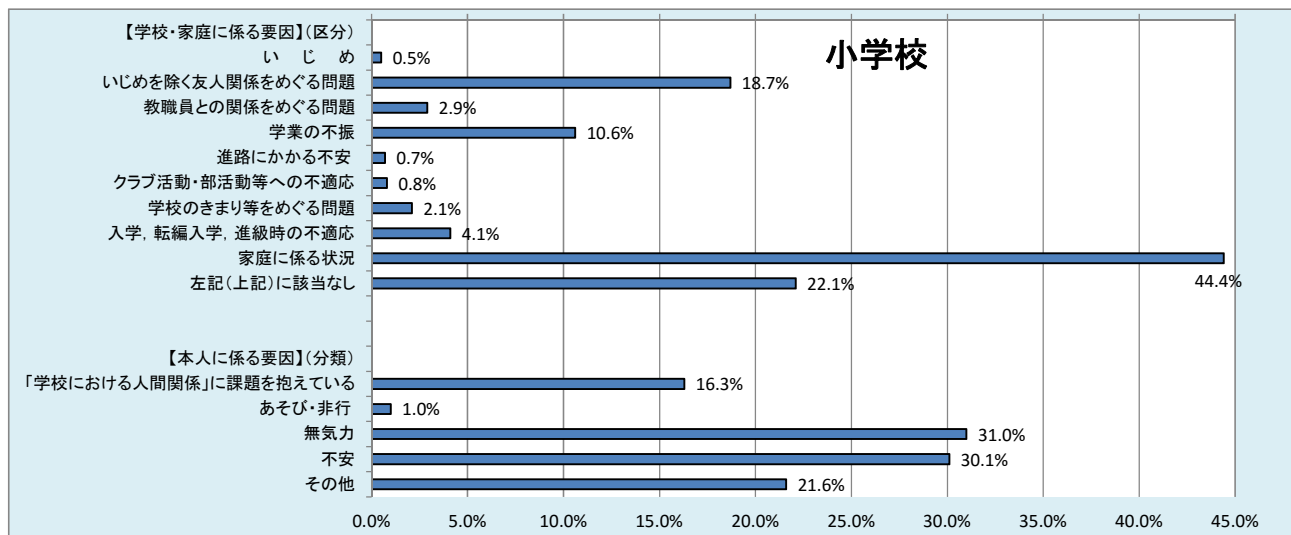
(注1) 「本人に係る要因(分類)」については、「長期欠席者の状況」で「不登校」と回答した児童全員につき、主たる要因一つを選択。

(注2) 「学校・家庭に係る要因(区分)」については、複数回答可。「本人に係る要因(分類)」で回答した要因の理由として考えられるものを「学校に係る状況」「家庭に係る状況」より全て選択。なお、学校及び家庭に係る状況に当てはまるものがない場合は、左記に該当なしを選択。

(注3) 「家庭に係る状況」とは、家庭の生活環境の急激な変化、親子関係をめぐる問題、家庭内の不和等が該当する。

(注4) 中段は、各区分における「分類別児童数」に対する割合。下段は、各区分における「学校・家庭に係る要因(区分)」の「計」に対する割合。

(注5) 分類の「その他」については、本人や保護者と話をしても上記傾向が見えず、理由がはっきりしないもの。

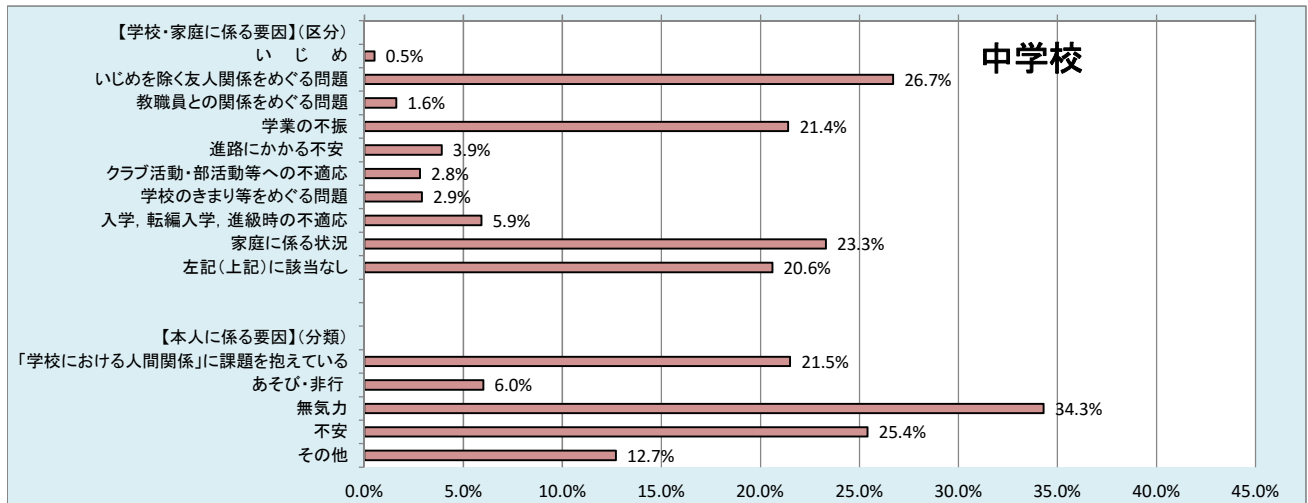




(2) 中学校

本人に係る要因 (分類)	学校・家庭に係る要因 (区分)	分類別生徒数	学校に係る状況								家庭に係る状況	左記に該当なし
			いじめ	いじめを除く友人関係をめぐる問題	め教職員との関係	学業の不振	進路に係る不安	動クラブ活動、部活動等への不適応	め学校のきまり等をめぐる問題	進入学時、転編入学、進級時の不適応		
「学校における人間関係」に課題を抱えている。		903	12	636	40	91	28	44	11	71	72	33
	—		1.3%	70.4%	4.4%	10.1%	3.1%	4.9%	1.2%	7.9%	8.0%	3.7%
	21.5%	63.2%	56.8%	58.8%	10.1%	17.3%	37.0%	9.1%	28.7%	7.4%	3.8%	
「あそび・非行」の傾向がある。		253	0	18	5	75	8	1	72	4	91	29
	—		0.0%	7.1%	2.0%	29.6%	3.2%	0.4%	28.5%	1.6%	36.0%	11.5%
	6.0%	0.0%	1.6%	7.4%	8.4%	4.9%	0.8%	59.5%	1.6%	9.3%	3.4%	
「無気力」の傾向がある。		1,438	3	140	8	461	56	46	26	64	417	334
	—		0.2%	9.7%	0.6%	32.1%	3.9%	3.2%	1.8%	4.5%	29.0%	23.2%
	34.3%	15.8%	12.5%	11.8%	51.4%	34.6%	38.7%	21.5%	25.9%	42.7%	38.7%	
「不安」の傾向がある。		1,066	3	294	8	216	66	22	6	79	209	265
	—		0.3%	27.6%	0.8%	20.3%	6.2%	2.1%	0.6%	7.4%	19.6%	24.9%
	25.4%	15.8%	26.3%	11.8%	24.1%	40.7%	18.5%	5.0%	32.0%	21.4%	30.7%	
「その他」		531	1	32	7	54	4	6	6	29	188	202
	—		0.2%	6.0%	1.3%	10.2%	0.8%	1.1%	1.1%	5.5%	35.4%	38.0%
	12.7%	5.3%	2.9%	10.3%	6.0%	2.5%	5.0%	5.0%	11.7%	19.2%	23.4%	
計		4,191	19	1,120	68	897	162	119	121	247	977	863
	100.0%	0.5%	26.7%	1.6%	21.4%	3.9%	2.8%	2.9%	5.9%	23.3%	20.6%	

- (注1) 「本人に係る要因(分類)」については、「長期欠席者の状況」で「不登校」と回答した生徒全員につき、主たる要因一つを選択。
- (注2) 「学校・家庭に係る要因(区分)」については、複数回答可。「本人に係る要因(分類)」で回答した要因の理由として考えられるものを「学校に係る状況」「家庭に係る状況」より全て選択。なお、学校及び家庭に係る状況に当てはまるものがない場合は、左記に該当なしを選択。
- (注3) 「家庭に係る状況」とは、家庭の生活環境の急激な変化、親子関係をめぐる問題、家庭内の不和等が該当する。
- (注4) 中段は、各区分における「分類別生徒数」に対する割合。下段は、各区分における「学校・家庭に係る要因(区分)」の「計」に対する割合。
- (注5) 分類の「その他」については、本人や保護者と話をしても上記傾向が見えず、理由がはっきりしないもの。



8 相談・指導等を受けた学校内外の機関等

区分	小学校					中学校					計					
	人数	割合(%)	指導要録上出席扱いの人数	出席扱いにした学校数(校)	通学定期乗車券制度の利用人数	人数	割合(%)	指導要録上出席扱い(人)	出席扱いにした学校数(校)	通学定期乗車券制度の利用人数	人数	割合(%)	指導要録上出席扱いの人数	出席扱いにした学校数(校)	通学定期乗車券制度の利用人数	
学 校	(1)①～⑦の機関等での相談・指導等を受けた実人数	508	34.9%	231	155	3	1,100	26.2%	781	273	17	1,608	28.5%	1,012	428	20
	① 教育支援センター(適応指導教室)	162	11.1%	123	87	2	466	③ 11.1%	431	186	7	628	③ 11.1%	554	273	9
	② 教育委員会及び教育センター等教育委員会所管の機関(①を除く)	213	③ 14.6%	89	61	0	340	8.1%	252	100	2	553	9.8%	341	161	2
	③ 児童相談所, 福祉事務所	46	3.2%	11	11	0	111	2.6%	55	35	1	157	2.8%	66	46	1
	④ 保健所, 精神保健福祉センター	3	0.2%	0	0	0	11	0.3%	0	0	0	14	0.2%	0	0	0
	⑤ 病院, 診療所	85	5.8%	9	6	0	157	3.7%	25	18	0	242	4.3%	34	24	0
	⑥ 民間団体, 民間施設	34	2.3%	8	8	1	59	1.4%	41	34	7	93	1.6%	49	42	8
	⑦ 上記以外の機関等	35	2.4%	4	4	0	37	0.9%	10	7	1	72	1.3%	14	11	1
外	(2)①～⑦の機関等での相談・指導等を受けていない人数	948	65.1%				3,091	73.8%				4,039	71.5%			
	(3) (1), (2)の合計	1,456	100%				4,191	100%				5,647	100%			
学 校 内	(4)⑧, ⑨による相談・指導を受けた実人数	689	47.3%				2,062	49.2%				2,751	48.7%			
	⑧ 養護教諭による専門的な指導を受けた人数	326	② 22.4%				865	② 20.6%				1,191	② 21.1%			
	⑨ スクールカウンセラー, 相談員等による専門的な相談を受けた人数	479	① 32.9%				1,494	① 35.6%				1,973	① 34.9%			
	(5)上記⑧, ⑨による相談・指導を受けていない人数	767	52.7%				2,129	50.8%				2,896	51.3%			
	(6) (4), (5)の合計	1,456	100%				4,191	100%				5,647	100%			
(7)上記①～⑦, ⑧, ⑨による相談・指導等を受けていない人数	251	17.2%				907	21.6%				1,158	20.5%				

(注)複数回答を可としている。上記の割合は(%)は不登校児童生徒数に対する割合を示している。  
(不登校児童生徒数:小学校 1,456人、中学校 4,191人、合計 5,647人)

## 平成28年度 公立高等学校の長期欠席の状況等(千葉県)

### 1-(1)長期欠席者数(在籍者数は、5月1日現在の学校基本調査による)

	在籍者数(5/1現在)	長期欠席者総数	前年度増減	長期欠席率(%)	前年比
全日制	101,143	2,375	188	2.35%	0.18
定時制	2,902	1,204	-58	41.49%	0.79
合計	104,045	3,579	130	3.44%	0.12

(注)長期欠席者とは、一つの年度間に連続又は断続して30日以上欠席した者である。

### 1-(2)理由別長期欠席者数

長期欠席の理由	全日制			定時制			全定合計		
	総数	出現率(%)	割合(%)	総数	出現率(%)	割合(%)	総数	出現率(%)	割合(%)
病気	402	0.40%	16.93%	66	2.27%	5.48%	468	0.45%	13.08%
経済的理由	11	0.01%	0.46%	46	1.59%	3.82%	57	0.05%	1.59%
不登校	1,705	1.69%	71.79%	953	32.84%	79.15%	2,658	2.55%	74.27%
その他	257	0.25%	10.82%	139	4.79%	11.54%	396	0.38%	11.06%
合計	2,375	2.35%	100%	1,204	41.49%	100%	3,579	3.44%	100.00%

(注1)出現率とは、理由別長期欠席者数の全生徒数に対する割合である。

(注2)割合とは、理由別長期欠席者数の合計に占める割合である。

(注3)欠席理由が2つ以上あるときは、主な理由を1つ選び記入する。

### 2 不登校生徒における前年度の不登校の有無

	有	無	その他	合計
全日制	452	1,162	91	1,705
定時制	630	247	76	953
合計	1,082	1,409	167	2,658

(注)「その他」は、不登校生徒のうち前年度の不登校の状況が確認できなかった者である。

3-(1) 課程別不登校生徒数

	全 日 制		定 時 制		全 定 合 計	
	不登校生徒数	出現率(%)	不登校生徒数	出現率(%)	不登校生徒数	出現率(%)
1学年	464	1.67%	/		464	1.67%
2学年	549	1.99%	/		549	1.99%
3学年	471	1.74%	/		471	1.74%
単位制	221	1.18%	953	32.84%	1,174	5.44%
合 計	1,705	1.69%	953	32.84%	2,658	2.55%

3-(2) 課程別不登校生徒欠席状況

区 分	全 日 制				定時制 (単位制)	全定合計
	1年	2年	3年	単位制		
不登校生徒数	464	549	471	221	953	2,658
うち、90日以上欠席	57	50	16	18	244	385
うち、出席日数が10日以下	15	9	4	2	53	83
うち、出席日数が0日	4	2	2	1	27	36

3-(3) 不登校生徒のうち中途退学・原級留置になった生徒数

	不登校生徒数	中途退学者数	中途退学率(%)	原級留置者数	原級留置率(%)
全 日 制	1,705	476	27.92%	42	2.46%
定 時 制	953	197	20.67%	/	
合 計	2,658	673	25.32%	42	1.58%

3-(4) 不登校生徒への指導結果状況

区 分		全 日 制	定 時 制	全 定 合 計
		人数 %	人数 %	人数 %
指導の結果登校する又はできるようになった生徒		628	300	928
		36.8%	31.5%	34.9%
指導中の生徒		1,077	653	1,730
		63.2%	68.5%	65.1%
うち継続した登校には至らないものの好ましい変化が見られるようになった生徒	186	105	291	
	10.9%	11.0%	10.9%	
合 計		1,705	953	2,658

#### 4 不登校の要因

##### (1)高校:全日制

本人に係る要因 (分類)	学校・家庭に係る要因 (区分)	分類別生徒数	学校に係る状況							家庭に係る状況	左記に該当なし		
			いじめ	いじめを除く友人関係に関する問題	教職員との関係に関する問題	学業の不振	進路に係る不安	クラブ活動・部活動等への不適応	学校のきまり等をめぐる問題			入学・転編入学、進級時の不適応	
「学校における人間関係」に課題を抱えている。		267	7	174	1	16	12	8	5	27	11	10	
	—	—	2.6%	65.2%	0.4%	6.0%	4.5%	3.0%	1.9%	10.1%	4.1%	3.7%	
	15.7%	87.5%	68.5%	14.3%	3.9%	13.2%	40.0%	7.6%	12.7%	5.7%	2.6%		
「あそび・非行」の傾向がある。		215	0	9	3	56	2	0	42	20	28	35	
	—	—	0.0%	4.2%	1.4%	26.0%	0.9%	0.0%	19.5%	9.3%	13.0%	16.3%	
	12.6%	0.0%	3.5%	42.9%	13.8%	2.2%	0.0%	63.6%	9.4%	14.4%	8.9%		
「無気力」の傾向がある。		777	1	24	0	256	15	7	18	126	71	213	
	—	—	0.1%	3.1%	0.0%	32.9%	1.9%	0.9%	2.3%	16.2%	9.1%	27.4%	
	45.6%	12.5%	9.4%	0.0%	62.9%	16.5%	35.0%	27.3%	59.2%	36.6%	54.3%		
「不安」の傾向がある。		254	0	38	3	64	46	4	1	29	43	36	
	—	—	0.0%	15.0%	1.2%	25.2%	18.1%	1.6%	0.4%	11.4%	16.9%	14.2%	
	14.9%	0.0%	15.0%	42.9%	15.7%	50.5%	20.0%	1.5%	13.6%	22.2%	9.2%		
「その他」		192	0	9	0	15	16	1	0	11	41	98	
	—	—	0.0%	4.7%	0.0%	7.8%	8.3%	0.5%	0.0%	5.7%	21.4%	51.0%	
	11.3%	0.0%	3.5%	0.0%	3.7%	17.6%	5.0%	0.0%	5.2%	21.1%	25.0%		
計		1,705	8	254	7	407	91	20	66	213	194	392	
	—	—	100.0%	0.5%	14.9%	0.4%	23.9%	5.3%	1.2%	3.9%	12.5%	11.4%	23.0%

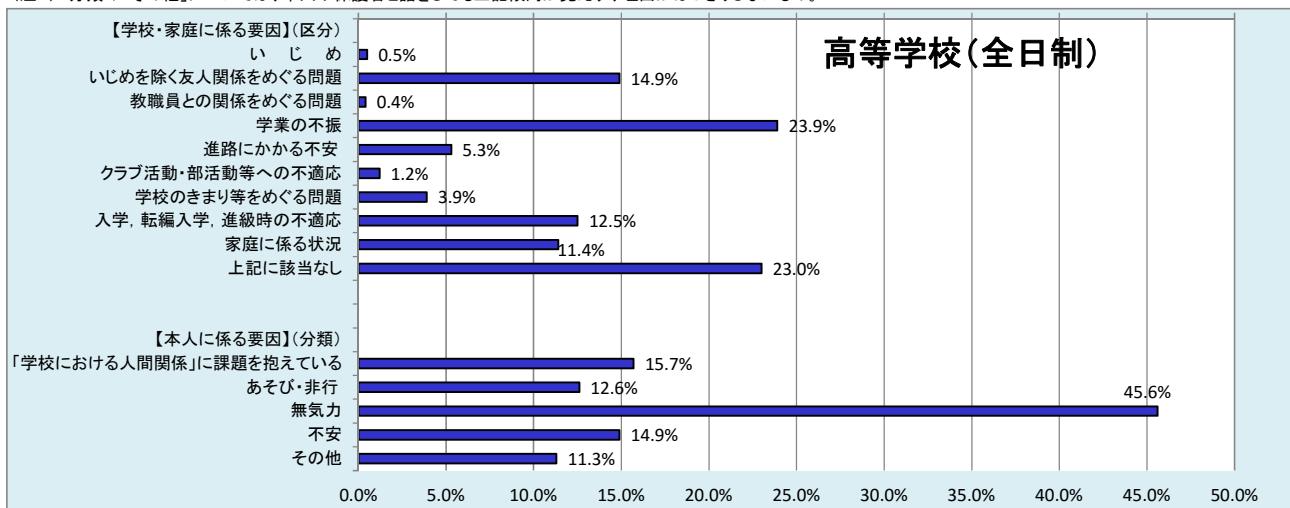
(注1) 「本人に係る要因(分類)」については、「長期欠席者の状況」で「不登校」と回答した生徒全員につき、主たる要因一つを選択。

(注2) 「学校・家庭に係る要因(区分)」については、複数回答可。「本人に係る要因(分類)」で回答した要因の理由として考えられるものを「学校に係る状況」「家庭に係る状況」より全て選択。なお、学校及び家庭に係る状況に当てはまるものがない場合は、左記に該当なしを選択。

(注3) 「家庭に係る状況」とは、家庭の生活環境の急激な変化、親子関係をめぐる問題、家庭内の不和等が該当する。

(注4) 中段は、各区分における「分類別生徒数」に対する割合。下段は、各区分における「学校・家庭に係る要因(区分)」の「計」に対する割合。

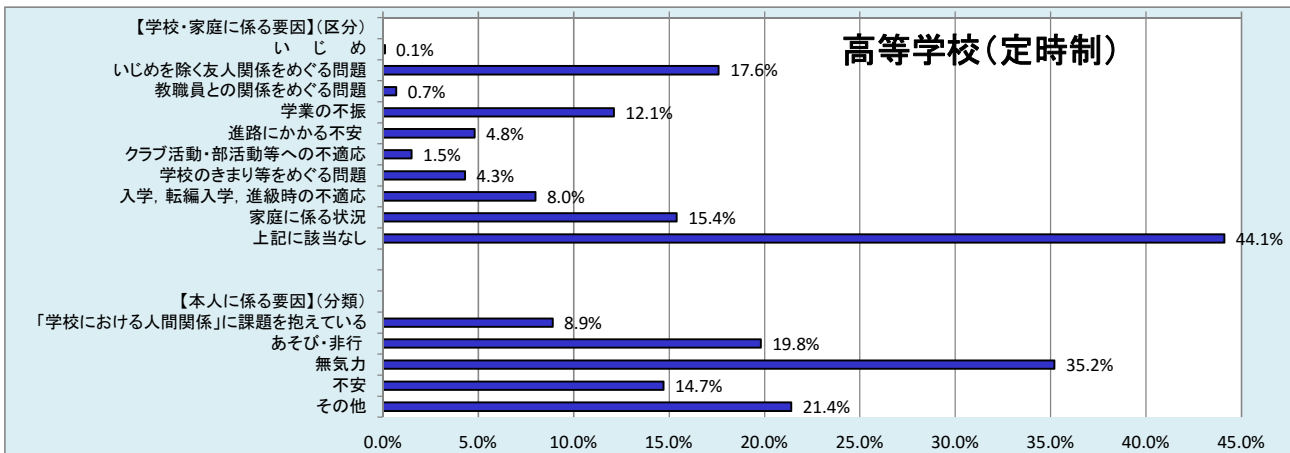
(注5) 分類の「その他」については、本人や保護者と話をしても上記傾向が見えず、理由がはっきりしないもの。



(2) 高校: 定時制

本人に係る要因 (分類)	学校・家庭に係る要因 (区分)	分類別生徒数	学校に係る状況								家庭に係る状況	左記に該当なし
			いじめ	いじめを除く友人関係の問題	教職員との関係の問題	学業の不振	進路に係る不安	クラブ活動・部活動への不適応	学校のきまり等をめぐる問題	入学、転編入学、進級時の不適応		
「学校における人間関係」に課題を抱えている。		85	1	65	4	13	2	2	0	6	5	3
	—		1.2%	76.5%	4.7%	15.3%	2.4%	2.4%	0.0%	7.1%	5.9%	3.5%
	<b>8.9%</b>	100.0%	38.7%	57.1%	11.3%	4.3%	14.3%	0.0%	7.9%	3.4%	0.7%	
「あそび・非行」の傾向がある。		189	0	25	1	24	8	7	31	28	28	60
	—		0.0%	13.2%	0.5%	12.7%	4.2%	3.7%	16.4%	14.8%	14.8%	31.7%
	<b>19.8%</b>	0.0%	14.9%	14.3%	20.9%	17.4%	50.0%	75.6%	36.8%	19.0%	14.3%	
「無気力」の傾向がある。		335	0	48	1	55	13	5	8	24	38	148
	—		0.0%	14.3%	0.3%	16.4%	3.9%	1.5%	2.4%	7.2%	11.3%	44.2%
	<b>35.2%</b>	0.0%	28.6%	14.3%	47.8%	28.3%	35.7%	19.5%	31.6%	25.9%	35.2%	
「不安」の傾向がある。		140	0	19	1	13	10	0	0	7	36	50
	—		0.0%	13.6%	0.7%	9.3%	7.1%	0.0%	0.0%	5.0%	25.7%	35.7%
	<b>14.7%</b>	0.0%	11.3%	14.3%	11.3%	21.7%	0.0%	0.0%	9.2%	24.5%	11.9%	
「その他」		204	0	11	0	10	13	0	2	11	40	159
	—		0.0%	5.4%	0.0%	4.9%	6.4%	0.0%	1.0%	5.4%	19.6%	77.9%
	<b>21.4%</b>	0.0%	6.5%	0.0%	8.7%	28.3%	0.0%	4.9%	14.5%	27.2%	37.9%	
計		953	1	168	7	115	46	14	41	76	147	420
		<b>100.0%</b>	<b>0.1%</b>	<b>17.6%</b>	<b>0.7%</b>	<b>12.1%</b>	<b>4.8%</b>	<b>1.5%</b>	<b>4.3%</b>	<b>8.0%</b>	<b>15.4%</b>	<b>44.1%</b>

- (注1) 「本人に係る要因(分類)」については、「長期欠席者の状況」で「不登校」と回答した生徒全員につき、主たる要因一つを選択。
- (注2) 「学校・家庭に係る要因(区分)」については、複数回答可。「本人に係る要因(分類)」で回答した要因の理由として考えられるものを「学校に係る状況」「家庭に係る状況」より全て選択。なお、学校及び家庭に係る状況に当てはまるものがない場合は、左記に該当なしを選択。
- (注3) 「家庭に係る状況」とは、家庭の生活環境の急激な変化、親子関係をめぐる問題、家庭内の不和等が該当する。
- (注4) 中段は、各区分における「分類別生徒数」に対する割合。下段は、各区分における「学校・家庭に係る要因(区分)」の「計」に対する割合。
- (注5) 分類の「その他」については、本人や保護者と話をしても上記傾向が見えず、理由がはっきりしないもの。



5 相談・指導等を受けた学校内外の機関等

区 分		全 日 制		定 時 制		全 定 合 計	
		総数	割合 (%)	総数	割合 (%)	総数	割合 (%)
学 校 外	(1)①～⑦の機関等での相談・指導を受けた実人数	105	6.2%	61	6.4%	166	6.2%
	指導要録上出席扱いとなった人数	7		0		7	
	①教育支援センター(適応指導教室)	1	0.1%	0	0.0%	1	0.0%
	指導要録上出席扱いとなった人数	0		0		0	
	②教育センター等教育委員会所管の機関(①を除く)	3	0.2%	1	0.1%	4	0.2%
	指導要録上出席扱いとなった人数	0		0		0	
	③児童相談所, 福祉事務所	15	0.9%	5	0.5%	20	0.8%
	指導要録上出席扱いとなった人数	5		0		5	
	④保健所, 精神保健福祉センター	3	0.2%	1	0.1%	4	0.2%
	指導要録上出席扱いとなった人数	0		0		0	
	⑤病院, 診療所	78	③ 4.6%	50	③ 5.2%	128	③ 4.8%
	指導要録上出席扱いとなった人数	1		0		1	
	⑥民間団体, 民間施設	1	0.1%	2	0.2%	3	0.1%
	指導要録上出席扱いとなった人数	0		0		0	
⑦上記以外の機関等	8	0.5%	2	0.2%	10	0.4%	
指導要録上出席扱いとなった人数	1		0		1		
(2)①～⑦の機関等での相談・指導等を受けていない	1,399	82.1%	760	79.7%	2,159	81.2%	
(3)不明	201	11.8%	132	13.9%	333	12.5%	
(4) (1)～(3)の合計	1,705	100.0%	953	100.0%	2,658	100.0%	
学 校 内	(5) ⑧, ⑨による相談・指導等を受けた実人数	455	26.7%	157	16.5%	612	23.0%
	⑧養護教諭による専門的な指導を受けた人数	241	② 14.1%	83	① 8.7%	324	② 12.2%
	⑨SC, 相談員等による専門的な相談を受けた人数	298	① 17.5%	77	② 8.1%	375	① 14.1%
	(6)上記⑧, ⑨による相談・指導等を受けていない人数	1,250	73.3%	796	83.5%	2,046	77.0%
	(7) (5), (6)の合計	1,705	100.0%	953	100.0%	2,658	100.0%

(注)複数回答を可としている。上記の割合は(%)は不登校生徒数に対する割合を示している。  
(不登校生徒数:全日制 1,705人、定時制 953人、合計 2,658人)

## 平成28年度 公立高等学校の中途退学者数等の状況(千葉県)

### 1-(1) 中途退学者数(在籍者数は、4月1日現在による)

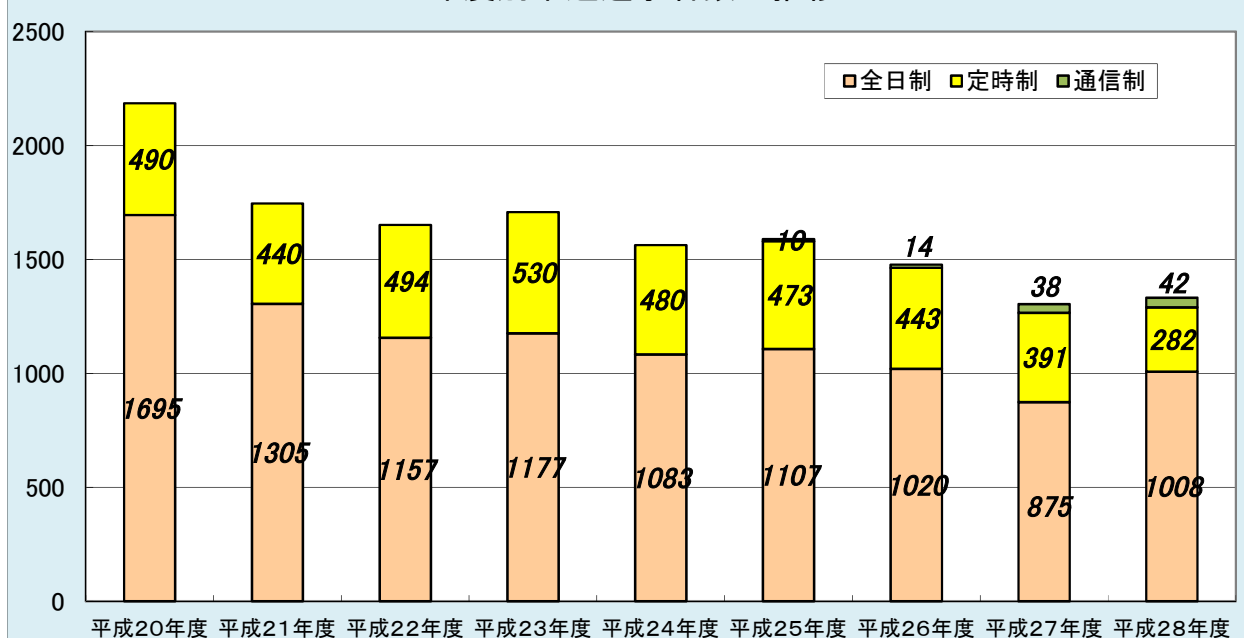
	在籍者数(4/1現在)	中途退学者総数	前年度増減	中退率(%)	前年比
全日制	101,164	1,008	133	1.00%	0.13
定時制	2,909	282	-109	9.69%	-2.98
通信制	1,075	42	4	3.91%	0.62
合計	105,148	1,332	28	1.27%	0.03

(注)平成25年度の調査から通信制が加わった。

### 1-(2) 中途退学者(人数)・中途退学率(%)の推移

		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
全日制	中退者数	1,695	1,305	1,157	1,177	1,083	1,107	1,020	875	1,008
	中退率(%)	1.75%	1.35%	1.18%	1.18%	1.07%	1.11%	1.01%	0.87%	1.00%
定時制	中退者数	490	440	494	530	480	473	443	391	282
	中退率(%)	16.13%	13.61%	14.18%	14.82%	13.18%	13.45%	13.26%	12.67%	9.69%
通信制	中退者数	—	—	—	—	—	10	14	38	42
	中退率(%)	—	—	—	—	—	0.69%	1.32%	3.29%	3.91%
合計	中退者数	2,185	1,745	1,651	1,707	1,563	1,590	1,477	1,304	1,332
	中退率(%)	2.19%	1.75%	1.62%	1.66%	1.50%	1.51%	1.40%	1.24%	1.27%

年度別中途退学者数の推移





2-(1) 全日制学年別中途退学者数

学年	在籍者数 (4/1現在a)	中退者数(b)	中退率 (b/a %)	中退率 前年比	割合 (%)	割合 前年比
1	27,820	453	1.63%	0.38	44.9%	4.8
2	27,589	317	1.15% ※1	-0.09	31.4%	-8.5
3	27,522	123	0.45% ※2	0.08	12.2%	0.9
単位制	18,233	115	0.63%	0.19	11.4%	2.7
合計	101,164	1,008	1.00%	0.13	100.0%	

(※1) 数値が1.149…のため、概要(5P)では「1.1」で記載している。  
 (※2) 数値が0.446…のため、概要(5P)では「0.4」で記載している。

2-(2) 定時制・通信制中途退学者数

学年	在籍者数 (4/1現在a)	中退者数(b)	中退率 (b/a %)	中退率 前年比
定時制	2,909	282	9.69%	-2.98
通信制	1,075	42	3.91%	0.62
合計	3,984	324	8.13%	-1.98

3 中途退学の理由別割合

中途退学の理由	全日制			定時制			通信制			合計			
	総数	割合(%)	前年比	総数	割合(%)	前年比	総数	割合(%)	前年比	総数	割合(%)	前年比	
学 業 不 振	144	14.3%	0.4%	12	4.3%	-1.8%	10	23.8%	-13.0%	166	12.5%	0.2%	
学 校 生 活 学 業 不 適 応	もともと高校生活に熱意がない	211	20.9%	0.3%	65	23.0%	1.0%	19	45.2%	11.0%	295	22.1%	0.7%
	授業に興味があかない	89	8.8%	2.9%	19	6.7%	-3.0%	0	0.0%	0.0%	108	8.1%	1.2%
	人間関係がうまく保てない	115	11.4%	0.3%	30	10.6%	0.4%	0	0.0%	0.0%	145	10.9%	0.4%
	学校の雰囲気が合わない	65	6.4%	0.6%	14	5.0%	-2.2%	0	0.0%	0.0%	79	5.9%	-0.2%
	その他	53	5.3%	-1.3%	16	5.7%	2.9%	0	0.0%	0.0%	69	5.2%	-0.1%
進 路 変 更	別の高校への入学を希望	122	12.1%	1.5%	13	4.6%	1.0%	7	16.7%	3.5%	142	10.7%	2.1%
	専修・各種学校への入学を希望	8	0.8%	0.3%	3	1.1%	0.8%	1	2.4%	2.4%	12	0.9%	0.5%
	就職を希望	47	4.7%	-3.2%	40	14.2%	-0.9%	0	0.0%	0.0%	87	6.5%	-3.3%
	高卒程度認定試験を受験希望	20	2.0%	0.1%	4	1.4%	-0.9%	0	0.0%	0.0%	24	1.8%	-0.2%
	その他	27	2.7%	1.7%	8	2.8%	2.5%	3	7.1%	-0.8%	38	2.9%	1.9%
病 気 け が 死 亡	27	2.7%	-0.2%	4	1.4%	-4.0%	1	2.4%	-2.9%	32	2.4%	-1.3%	
経 済 的 理 由	4	0.4%	-0.6%	9	3.2%	0.9%	0	0.0%	0.0%	13	1.0%	-0.4%	
家 庭 の 事 情	29	2.9%	-1.0%	26	9.2%	1.3%	1	2.4%	-0.2%	56	4.2%	-0.9%	
問 題 行 動 等	26	2.6%	-1.2%	15	5.3%	3.3%	0	0.0%	0.0%	41	3.1%	0.0%	
そ の 他 の 理 由	21	2.1%	-0.4%	4	1.4%	-1.4%	0	0.0%	0.0%	25	1.9%	-0.6%	
合 計	1,008	100.0%		282	100.0%		42	100.0%		1,332	100.0%		

(注1) 上記の割合は(%)は中途退学者数に対する割合を示している。

(中途退学者数: 全日制 1,008人、定時制 282人、通信制 42人)

(注2) 前年比については、少数点第2位を四捨五入した数値にて算出している。

(注3) 資料中の割合の欄は四捨五入で処理した数値のため、合計と合わない場合がある。